



No. 600
2017.4.28
京大職組
文学部支部

それぞれの春、ちよつとずつの組合 —加入のお誘い—



文学部支部長 谷川 穰

二〇一七年度がスタートしてしま
いました。皆さま、今年度もどうぞ
よろしくお願ひします。そして新し
く文学部に來られた皆さま、ようこ
そ。新しい環境に慣れない戸惑い
と、わくわくする気持ちが入り交
じった、そんな理想的な春を迎えら
れているでしょうか。いや、子ども
が学校に行つて家の中が通常運轉
になりホツとしたとか、もつと春休
み気分であつたとか（これは私
のことです）、それぞれの春をお過
ごしのことと思ひます。

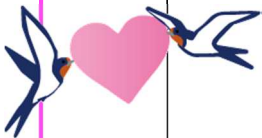
大学に勤める人も、まさに人それ
ぞれ。年齢も職位も、部署も繁忙期
も、通勤手段や勤務条件も本当に多
様ですし、抱えている問題も、それ
を見る角度や範囲も全然違ひます。
職員組合は、そうした違いをこえて
お互いを知りあひ、その違いを共有
できる場でもあります。それを踏ま
えて、さまざまな問題を抱えた労働
環境・条件を改善すべく、大学や部
局の構造的問題を指摘し物申す、そ
してよりよい職場としての京大を
目指していく、そのための組織で
す。つまり勤務されている皆さん全
員に、それぞれ大きく関わる組織と
いうことになります。

もつとも、文学部支部ではもつ
とベタなこともやっています。
「事務室の流し台の水が流れに
くい」といった身近な改善を事務
長に掛け合う一方で、幕末京都を
めぐる考古学的成果や京大の女
性教員の歴史などの展示を、専門
家による解説付きで観覧する企
画も。解説をお引き受けいただい
た先生方も多くが文学部ご出身
だつたりして、当支部ならではの
ぜいたくなイベントかもしれま
せん。

右に述べた流し台のほうも、パ
イプ詰まりを改善してもらえ
ることとなり、昨年度無事解決しま
した。水が流れたからつて何な
の、と思われるかもしれませんが、
しかしそのようなことですら、簡
単には進めてもらえないのが大
学の現状だつたりすることは、う
つすらお気づきのことでしょう。

人文学は一朝一夕
で解決できない問
題に対しても根気
よく考え続けるこ
とに価値

組合にも通じる



でもそれは、とても大事な出発点
です。ちよつと気づき、口にする。
気づかないふりをしたり、まあそ
んなもんだよねと感覚が麻痺した
りすれば、問題はどんどん積み重
なります。「パイプ詰まり」を起
こし破裂する前に、皆でちよつと
ずつ進めていくこと。文学部とい
う環境で営まれる人文学は、も
と目先の利益に飛びつき独り勝
ちすることをよしとせず、一朝一
夕で解決できない問題に対しても
根気よく考え続けること、それ自
体に価値をおくものではないかと
愚考します。毎年同じような懸案
があり、粘り強くそれに気づき続
けるという点において、組合でや
っていることは、案外と文学部で
の営為とつながっているのではな
いでしょうか。その環境を今後も
作り続けるために、皆さんの力を
をほんのちよつとずつお借りでき
ればと思ひます。よろしくお願ひ
いたします。



4/2

新事務長に
ご挨拶にいきました。



四月二十一日昼休みに、支部委
員会は今年度、新たに着任された
井本憲事務長に対して挨拶を申
し入れました。

全員の自己紹介の後、谷川支部
長より、「今年度は、時間雇用職
員の雇用制度が一部変わる時、お
話しさせていただくことも多い
と思うのでよろしくお願ひした
い」と挨拶しました。

井本事務長からは「情報のやり
取りをすることや話ができる環
境は大切にしたい。私の方から、
組合にお聞きすることもあるか
もしれない。組合からも交渉や、
懇談を必要とする問題があれば、
申し入れてもらえたいと思う。
これまで、病院支部と、互いの要
望をリンクさせ、成果を上げたこ
ともある。職場のいろんな場
面、気楽に声をかけてもらえ
ばいい。」

十分ほどでしたが、とても話し
やすい雰囲気の中、あいさつを終
えました。



好評です！

次は第5弾・・・

当支部ならではの贅沢なイベント

文学部出身専門家による解説付で観覧



平成28年度特別展

「日本の表装一紙と絹の文化を支える」

SOUKOU-The Japan Way to Beautify and Preserve Cultural Heritage

文化企画 第3弾

2017年1月20日

岩崎館長の案内で見学会を行い、26名が参加しました。

人間味ある
修復の足跡

・不勉強で「角筆」はもっぱら野線などの印をつけるものと思っていたので、角筆で書き入れていることに驚きました。
(ちなみに、帰って主人に話すと、十年位前に親鸞聖人の教行信証で直筆の角筆が見つかったという話を教えてくれました)

・展示の仕方が独特で、展示業者の方が驚いたという話は担当者特有の裏話で面白かったです
・そんなに高価な資料でなくとも見せ方を工夫すれば立派な展示になるというのは図書館の展示を考えるうえで参考になります。

・先人たちの修復の足跡が(資料には良くないことありますが)人間味があつてとても親近感が持てました

文系共通事務部【図書】

普段は対象にならない「破損した状態も含めた展示」からなぜ破損する、破損をどうとらえる、どうして残す、どう残すなど、いろいろな新しい観点でお話を伺い、本当に興味深く、楽しい時間をいただきました。ありがとうございます。

文系共通事務部【図書】

博物館見学会に参加して・・・大変勉強になりました。

平成28年度特別展

「文化財発掘Ⅲー激動の幕末と京大キャンパスー」

内記理先生の案内で見学会を行い、24名が参加しました。

文化企画 第4弾

2017年3月8日

感想

先の見学会では、現在の京大吉田キャンパスの辺りにあった尾張藩、土佐藩、(推定)徳島藩の遺構や遺物について詳しい解説を聞くことができ、大変勉強になりました。
とくに、京大附属図書館所蔵の幕末の地図(改正京町御絵図細見大成)は、幕末期の京大付近の姿を想像するのに役立ちました。
個人的には、現在熊野寮の近くに住んでいるので、(推定)徳島藩の「推定」が今後の研究の進展で取れる日が来ることを期待しております。

倫理学 児玉聡

吉田キャンパスに
尾張・土佐
(推定)徳島藩邸があつた
確定
を期待



お昼休みという短い時間でしたが、先生がたいへん分かりやすく発掘成果をご説明下さり、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。
京都には多くの遺跡があることは知っていても、この京大構内にこのような幕末の藩邸があつたことは初めて知りました。しかも、出土品や地図資料から、どの藩の藩邸であつたのかを明らかにされたことは、とても大きな成果だと思いました。発掘調査から得られた考古学的成果と、文字史料と照らし合わせることで、その遺跡の年代や、それが何であつたかを確実に知ることが出来るのだと、改めて認識させられる興味深いお話ばかりでした。
最新の調査・研究の成果を先生から直接うかがえる貴重な見学会に参加させていただき、たいへんありがたく思いました。これからもこのような機会があれば、ぜひ参加したいです。

文系共通事務部【図書】